

ayon
audio

Spirit III

Stereo Tube Integrated Amplifier

Owner's Operating Manual



アイオン / スピリット III

ステレオ 真空管インテグレートッドアンプ

取扱説明書

もくじ

はじめに・・・・・・・・3

安全にご使用いただくために / 電源電圧について / ヒューズについて / 付属電源コードの取扱いについて

お取り扱い上の諸注意・・・・・・・・4

開梱・・・・・・・・5

本体外観 / 付属品

真空管の装着・・・・・・・・6

接続・・・・・・・・8

操作のしかた・・・・・・・・9

1. 電源 ON のプロセス
2. AFB(Auto-Fixed-Bias)システムの起動 (初めてご使用になる時)
3. 電源 OFF のプロセス
4. チューブテストプログラムの起動 (出力真空管を交換した場合)
5. 保護回路
6. Triode (三極管モード) ボタン
7. リモコン操作

ブレイクイン時間・・・・・・・・14

真空管寿命・・・・・・・・14

Ayon/真空管の品質管理プロセスについて・・・・・・・・14

主な仕様・・・・・・・・15

保証・・・・・・・・15

はじめに

このたびは、Ayon “Spirit III”をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

“Spirit III”は、2006年にその原型誕生の後幾度かアップグレードを重ね、バージョン III へと進化を遂げたハイエンド・インテグレート真空管アンプです。完璧なバイアス設定を自動で行なう AFB(インテリジェント・オートフィックス・バイアス)プログラム、そして Ayon Audio が創業当初から 20 数年間に亘り続ける 3 極管モード、シングルエンデッド・トライオード・アンプリフィケーションを、KT150 プッシュプルで実現する先進的回路デザインは、高い解像度と広大なダイナミクスによる鮮烈なリアリティーを再生音にもたらし、真空管アンプの価値と基準を革新します。

本取扱説明書には、本機の設置や操作、安全にご使用いただくための諸注意など、極めて重要な情報が含まれています。ご使用にあたっては、まず、本説明書を熟読され、正しくお取り扱いの上、末長くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

安全にご使用いただくために



■ 感電や火災事故をなどの危険を避けるため、絶対に本機のカバー(底板など)を取り外さないでください。※本機の内部回路には動作中極めて高い電圧/電流が供給されています。高電圧は、電源を落としても、しばらくは回路に滞留しています。

- 火傷などの危険を避けるため、真空管には手を触れないでください。
- 本機内部にはお客様に調整していただく部品はありません。修理・点検等は専門の技術者におまかせください。
- また、上面などに開いた穴などからヘアピン等の異物を入れたり落としたりしないでください。
- 火災や感電等の危険を避けるため、湿気が多い場所や水のかかる場所で本機を使用しないでください。また水がかかった時は、すぐに電源コードをコンセントから抜いてください。
- 本機を、暖炉やストーブなど熱源の近く、あるいは熱を発生する機器の付近で使用しないでください。
- 本機を、直射日光の当たる場所、あるいは低温になる場所で使用しないでください。
- 本機のお手入れには、柔らかい布をご使用ください(水やダストスプレー、溶剤、研磨剤、クリーニング剤は不可)。
- 感電のおそれがありますので、スピーカー接続端子の金属部分(接点)や、スピーカーケーブルの端末には手を触れないでください。音量によっては高電圧/強電流となりますので、特にお子様などが触れたりしないよう充分にご注意ください。
- 接続は、本機および接続する機器の電源コードをすべて抜いてから始めてください。

電源電圧について

本機は AC100V,50Hz/60Hz の日本仕様です。異なる電圧で使用すると故障の原因となり、その場合は保証対象外となりますのでご注意ください。また、電源は十分な容量を持つコンセントに接続してください。


ヒューズについて

リアパネルの AC 電源インレット下部にヒューズホルダーがあります。もしヒューズが切れた場合は同一仕様のもの(スローブロータイプ 5A)への交換が必要ですが、再び切れるようであれば何らかの不調原因があると思われるので、その場合はご購入販売店にご連絡ください。

付属電源コードの取扱いについて

本機に付属している電源コードは、本機専用のものです。他の機器にはご使用になれません。

お取り扱い上の諸注意

1. 本機を梱包から取り出したり移動する場合は、油分や汚れのないきれいな手で行なってください。滑り止め手袋などの着用をお勧めします。また、持ち運ぶ際は、本機の重さに十分留意し、両脇を両手で慎重に持ち行なってください。
2. キズなどの防止のため、服やズボンなどについているボタンやリベットが本機の表面に当たらないよう、持ち運ぶ際はご注意ください。
3. 真空管を装着する際は、直接手で触れず、手袋や柔らかい布をご使用ください。フィンガープリント(手のあと)が付くと真空管を痛める原因となります。
4. 動作中は、真空管がたいへん熱くなります。火傷の恐れがありますので、手を触れないでください。
5. 本機を移動する際は、リアパネルのスイッチに触れてその設定が変わってしまわないようご注意ください。
6. 本機は熱を発生しますので、放熱に支障のないよう、空気の対流の良い場所に置いてください。また、カーペットなどの上に置くと底面に設けられた穴を塞ぎ空気の循環を妨げますので避けてください。
7. 直射日光の当たる場所、湿気の多い場所には置かないでください。また、本機上面には物を置かないでください。
8. 電源コードはアース付 3P コンセントに差し込み接地をとってください 。電源プラグは濡れた手で触らないでください。
9. スピーカーの音圧などの影響を避け、最適なパフォーマンスを得るため、共振の少ないラックなどに置いてください。
10. 天候により雷などが発生する恐れのある時は、ACラインから混入し機器にダメージを与える危険なサージから本機を保護するため電源コードを抜いてください。
11. 真空管は必ず指定された場所に挿してください。また、挿しこむ際は、真空管のピンとソケット相互の位置を合わせ慎重に行なってください。ピンの位置が正しくないまま無理やり差し込むとソケットや真空管を痛める恐れがあります。
12. スピーカーを接続していない状態で本機を動作させないでください。尚、3Ω以下のスピーカーは接続しないでください。また、接続したスピーカーケーブルが末端でショートしないようご注意ください。ショート状態で駆動すると本機の出力トランス断線など重大な故障を招き、その場合、保証対象外となります。
13. **重要: 電源のオン/オフは必ず底面に左前角にある電源スイッチで行なってください。**
決してACプラグの抜き差しでは行わないでください。内部の電子回路が正しく働かず故障の原因となることがあります。
14. **5極管モード/3極管モードの切り替えは動作中に行なってはなりません。必ず、電源をオフにしてから行ないます。**
15. 本機を寒い場所から暖かい場所に移動したときは、結露など湿度の影響を避け、十分乾燥させるため、3時間程度は電源を入れず放置してください。
16. 真空管の寿命のためにも、使わない時は電源をオフにしてください。
17. 真空管を取り換える必要のある時は、十分に冷めていることを確認してください。

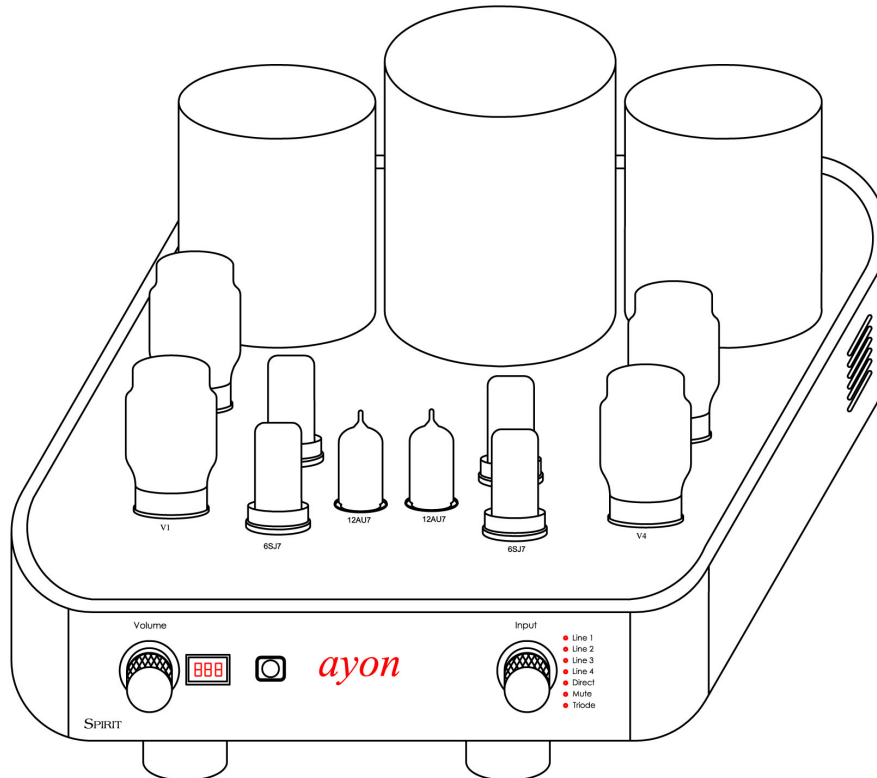


警告: 絶対に本機の底板を外して内部を触らないでください。内部には極めて高い電圧/電流の活電配線部があり、触れると人命にかかわる重大な危険を招く恐れがあります。例え電源を落としてもしばらくは滞電しています。

開梱

開梱の際、梱包箱は天地逆に置かないでください。箱上部に入っている真空管にダメージが及ぶ恐れがあります。開梱は、まず真空管のパッケージを取り出し、その後に、本体を取り出します。重いので十分注意してください。取り出したらまず、本体に輸送などに起因するダメージがないかどうかチェックしてください。

! もし、ダメージがあった場合は電源を入れないで、購入販売店にご連絡ください。
梱包箱は将来輸送の必要がある場合などのために保管されるようお勧めします。



本体外観

- ボリュームコントロール・ノブ
- ボリューム表示
- リモコン受光部
- 入力セレクター(Line1-4 LED 表示)
- Mute LED 表示(リモコン操作時に対応)
- Direct LED 表示(リアパネルのトグルスイッチに対応)
- **ayon** ロゴ(赤バックライト表示)
- 三極管モード LED 表示
- 真空管 - 2 x 12AU7 & 4 x 6SJ7 ※
- 真空管 - 4 x KT150 ※
- 出力トランス - left & right
- 電源トランス

付属品

- 4 x KT150 真空管 (出力)
- 2 x 12AU7 真空管(シグナル)
- 4 x 6SJ7 真空管 (ドライバー)
- 1 x リモコン
- 2 x 単 4 電池
- 1 x AC 電源コード
- 1 x 取扱説明書
- 1 x 保証登録はがき

※真空管は付属品として別梱包

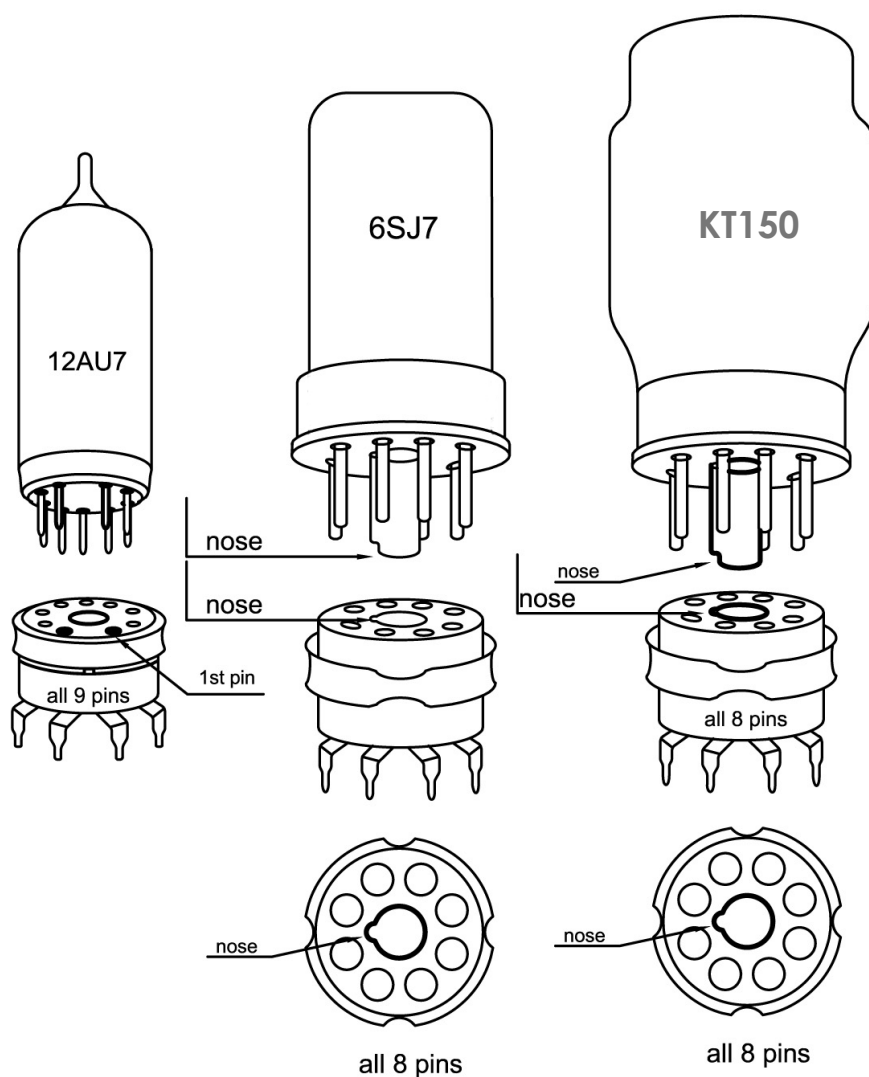
真空管の装着

開梱して取り出した真空管パッケージに入っているすべての真空管には、本体の真空管ソケット番号(V1,V2 ,,,, V10)に符合する番号がマークされています。同じ番号の位置に正しく装着してください。→次ページ参照

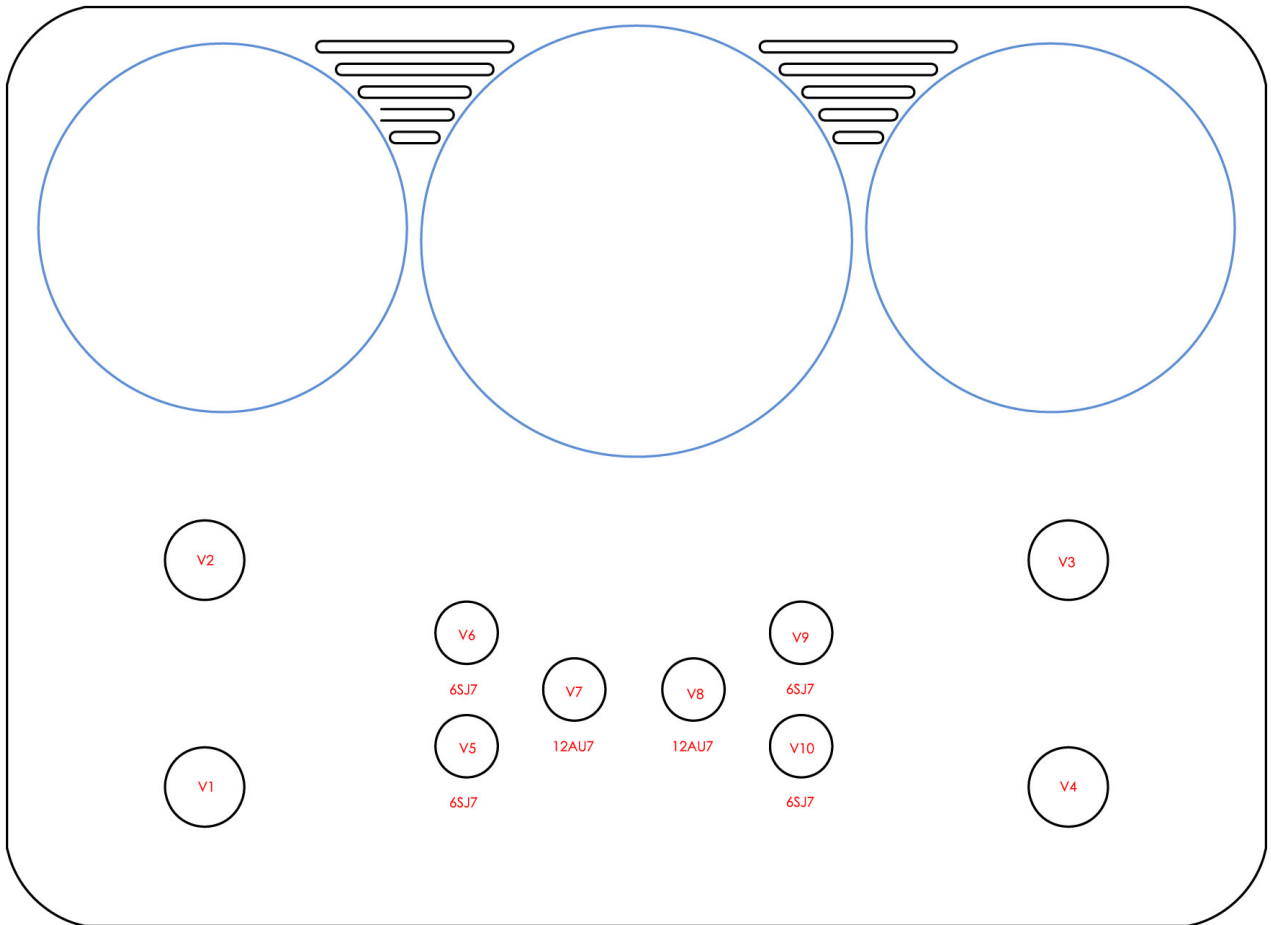
⚠ 重要:本機は厳密な最終調整を経て出荷されています。その調整値を崩さないため、真空管は必ず指定された場所に装着してください。

⚠ 注意:真空管装着の際は、真空管のピンとソケット相互の位置を合わせて慎重に行なってください。位置合わせの際には、決して真空管を左右にねじったりしないでください。ピンの位置が正しくないまま無理やり差し込むとソケットや真空管を痛める恐れがあります。正しく装着されると真空管底部とソケット上部との隙間はほとんどない状態となります。

注意:KT150 など大型真空管の着脱は、真空管のベース部を手でつかんで行なってください。ガラス管部分には触れないでください。12AU7 など小型真空管の着脱は直接手で触れず、手袋や柔らかい布をご使用ください。フィンガープリント(手の油脂)が付くと真空管を痛める原因となります。



SPIRIT III - 真空管装着位置



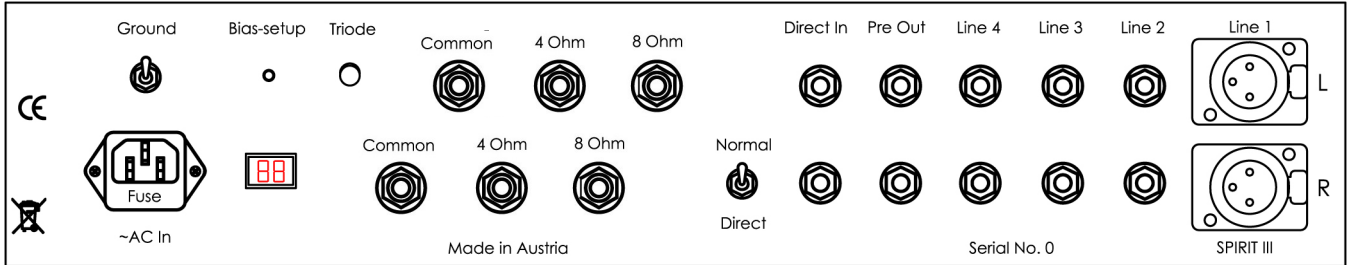
1. **12AU7** をV7, V8に
2. **6SJ7** を V5, V6, V9, V10に
3. **KT150** を V1 から V4に



すべての真空管にはソケット番号(V1,V2 ,,,, V10)に符合する番号がマークされています。同じ番号の位置に正しく装着してください。

接続

入力ケーブルやスピーカーケーブルなどの接続時には、常に本機の電源を OFF にしてから行なってください。また、何も接続していない状態では、本機の電源を ON にしないでください。



リアパネル

(右から)

- ライン端子: 1 x XLR(Line In 1), 3 x RCA(Line In 2-4) / 1 x RCA(Pre Out), 1 x RCA(Direct In) L/R
- トグルスイッチ: "Normal" / "Direct"切替
- スピーカー出カターミナル (8Ω / 4Ω / Common= -) L/R
- Triode (三極管モード) プッシュボタン
- Bias - setup (バイアス・セットアップ) プッシュボタン ※AFB(auto-fixed-bias)とチューブテストプログラム用
- Ground スイッチ(Direct モード時のみ有効)
- 7セグ LED 表示 ※AFB(auto-fixed-bias)とチューブ・プロテクションシステム用
- AC インレット/ヒューズホルダー

入力の接続: Line1(XLR 端子),Line2,Line3,Line4(各 RCA 端子)に、CD プレーヤーなどラインレベルのソース機器を接続します。 *XLR 端子極性:1=Ground, 2=Hot, 3=Open (※本入力はバランス出力のソースを接続するため XLR 端子を使用していますが実際の信号は 2 番ホットでのシングルエンド仕様となっています)

Pre Out / Direct In の接続: トグルスイッチを"Direct"に切替えた時に有効です。"Direct"モードでは、プリアンプ部とパワーアンプ部を切り離して使用することが可能で、"Pre Out"端子はプリアンプ出力として、"Direct In"端子はパワーアンプ入力として機能します。

Pre Out - Direct In 間にイコライザーなどプロセッサーを挿入することも可能です。

Note: "Direct"モードでは、もしDirect In に何も接続しなければ、入力オープンとなるため、スピーカーからノイズが出ることがあります。

Groundスイッチ: "Direct"モードでパワーアンプとして使用するとき、Direct Inに接続する別のプリアンプとの間でグラウンドループに起因するハムノイズが出る場合に、このスイッチでグラウンドを切り離すことが可能です。また、そうした影響を軽減するためにも、可能であれば、別のプリアンプの電源は本機と同じACコンセントから採ることをお勧めします。

スピーカーの接続: 左右のスピーカーケーブルを本機のスピーカー出カターミナル L/R に接続してください。Common にスピーカーケーブルのマイナス側を、また、スピーカーのインピーダンスに応じて 8Ω または 4Ω端子にプラス側を繋ぎます。

電源の接続: 付属の電源コードを、電源容量の十分ある(最低 15A)100V(50Hz または 60Hz)の AC コンセントに接続します。



本機を電源コンディショナーなどに接続することはお勧めしません。一部のメーカーを除き、一般的にそれらは、本機に電流制限を課すことになり、本機の性能が十分発揮されない恐れがあるからです。

操作のしかた

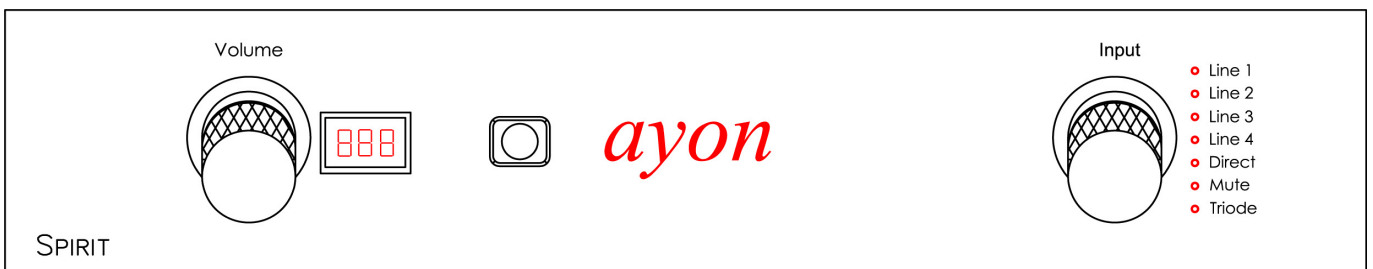
1. 電源 ON のプロセス

1. ソース機器、スピーカー、電源コードなどの接続がすべて正しいことを確認します。
2. まず本機のボリュームを最小にしておきます。
3. 電源スイッチを操作して電源を ON にします。(※電源スイッチはシーソー式で、本体左下手前の底面に位置しています。指先で操作します)
4. Ayon ロゴが点滅を始めます。(本機には電源の立ち上げをスムーズに行なうためのオートシーケンス・パワーオン回路が搭載されており、電源 ON 後約 60 秒間かけて各セクションを順次安全に起動して行きます)
5. 約 60 秒後、Ayon ロゴが点滅から点灯に変わると操作が可能になります。入力を選びボリュームを操作してください。

※以上、本機電源 ON 時のプロセスは毎回遵守してください。

Note: 電源を入れるとボリューム表示は毎回 -33 からスタートします。調整範囲は-47(最小)から 0(最大)です。

! 電源 ON の順序について: 不意なノイズによってスピーカーに負担を掛けることの無いよう本機と接続した CD プレーヤーなどのソース機器の電源 ON は次の順序を守ってください。 1. ソース機器の電源を ON 2. 本機の電源を ON



Power



(左下手前底面の電源スイッチ)

Note: 本機は高電圧/大容量のキャパシターを有するデュアルパワーサプライを搭載しています。また、本機の出力回路には音質上の理由から出力を遮断するリレーは挿入されておりません。そのため、ON/OFF 時には、キャパシターへの充放電に起因するハムノイズが僅かに発生することもあります。さらに、真空管自体からグリッドやアノードなど金属部材の熱膨張収縮による異音や、真空管内部の静電作用に起因する電氣的ノイズがごく短時間小音量でスピーカーから出ることもありますが、これらは異常ではありません。

! また、電源 ON 時、スピーカーからボンといった音が出ることもありますが、これも異常ではありません。また、スピーカーを損傷させる恐れもありません。

! 電源 ON/OFF は必ず電源スイッチの操作によって行なってください。電源コードの抜き差しによる ON/OFF や電灯線の元スイッチなどでの ON/OFF は行なわないでください。マイクロプロセッサ制御で行なわれるオートシーケンス・パワー回路の働きによるアンプの安全かつ安定した電源 ON/OFF の動作やアンプの寿命に支障を来す恐れがあります。

2. AFB(Auto-Fixed-Bias)システムの起動 (初めてご使用になる時)

初めてご使用になる時は、電源を入れてから 15 分から 20 分程度経過後、リアパネルの Bias – setup (バイアス・セットアップ) プッシュボタンをペン先など細い棒で軽く押し、AFB(Auto-Fixed-Bias)システムを起動させてください。

システムは、数分かけて、各真空管のバイアスレベルを最適値に自動調整します。これは、出荷時に調整済となっているバイアスをご使用の AC 電源電圧の僅かな違いに応じてより厳密に合致させる微調整プロセスです。

Note: AFB を起動させる際は無信号状態で行なってください。

AFB が起動し動作中は Mute LED 表示が点灯し、Ayon ロゴが点滅します。

数分かけて AFB が完了すると Mute が消え Ayon ロゴが通常点灯状態に復帰します。

AFB 動作中は電源を切らないでください。

注意: 電源投入後 10 分以内は、真空管が適正温度に達しないため AFB は起動できません。

- この AFB の起動は月に一度程度の割合で行なうとアンプは常にベストコンディションでご使用になれます。

参考: AFB は、Ayon が独自に開発したインテリジェント・バイアス設定システムで、いわゆる可変バイアスシステムなどとは異なり再生音量などに応じてバイアス値を自動的に変動させるものではありません。マイクロプロセッサが真空管のさまざまなパラメーターを自動チェックし、最適な固定バイアス値をセットすることで、音質への悪影響やパワーロスを来すことなく最良に動作させることを可能としています。

3. 電源 OFF のプロセス

- 電源を切る時はいつも、まず先にボリュームを最小にしてください。



電源 OFF の順序について: 不意なノイズによってスピーカーに負担を掛けることの無いよう本機と接続した CD プレーヤーなどのソース機器の電源 OFF は次の順序を守ってください。1. 本機の電源を OFF 2. ソース機器の電源を OFF



電源スイッチを OFF にすると本機は自動シャットダウンモードのプロセスに入り約2分をかけて徐々に各部の電気を落としてゆきます。この間は、Mute LED が点灯、Ayon ロゴが点滅しています。

プロセスが完了すると Mute LED、Ayon ロゴが消え完全に電源 OFF となります。



一度電源を OFF にした後、再び ON にする時は、最低でもこの2分間のインターバルをとってください。短時間の内に電源 ON – OFF を繰り返すとアンプの内部部品、真空管などの寿命に悪影響を及ぼします。



電源 OFF 時にポップノイズがスピーカーから出ることがありますが、本機の出力回路には音質上の理由から出力を遮断するリレーは挿入されていないため、異常ではありません。



接続を変える場合は、自動シャットダウンモードの完了後完全に電源 OFF となってから行ってください。

4. チューブテストプログラムの起動 (出力真空管を交換した場合)

リアパネルの Bias – setup ボタンは出力真空管の良否判定機能"チューブテストプログラム"も併せ持っています。

KT150 を交換した時は、まず初めにこの機能を利用して、真空管が電氣的にショートを起こしていないかどうか、電流過多でないかなど、アンプにとって安全であるかどうかを判定することができます。

次の手順で実施してください。

1. 電源スイッチを ON にします。Ayon ロゴが点滅を開始します。
2. ロゴが点滅している間にリアパネルの Bias – setup ボタンを(ペン先など細い棒で)軽く押します。
3. Mute LED が点灯し、"チューブテストプログラム"が開始されます。
4. すべての真空管に異常がなければ、Ayon ロゴが点滅から点灯に変わり、通常の動作モードとなります。

※"チューブテストプログラム"に要する時間は約 12 分間です。この間は電源を落とさないでください。また、入力を入れないでください。

※**異常があった場合**: "チューブテストプログラム"で不良真空管が検出された場合は即座に B 電源の供給が停止され、リアパネルの"7 セグ LED"に不良真空管の番号が表示されます。(01/69=V1, 02/69=V2, 03/69=V3..... など)

Note: この場合、電源スイッチを操作しても OFF にはならず Ayon ロゴは約 15 分間点滅を続けます。

対処のしかた

1. 電源スイッチを OFF ポジションにする
2. 電源コードを抜く
3. 真空管が冷めるのを待つ(約 10 分)
4. 不良真空管を交換する
5. 電源コードをコンセントに繋ぐ
6. 再度、"チューブテストプログラム"を実施する
7. すべての真空管に異常がなければ、Ayon ロゴが点滅から点灯に変わり、通常の動作モードとなります。

4-1. チューブテストプログラムの起動 (真空管の装着位置を間違えた場合)

付属の真空管に記載された番号と、本体の真空管ソケット番号(V1,V2 ,,,, V7)を間違えて装着した場合は、必ず"チューブテストプログラム"を行なってください。(上記 4 の手順を参照)

"チューブテストプログラム"の実施によって、AFB(Auto-Fixed-Bias)システムが自動的に各真空管の最適バイアスに再調整を行いません。

4-2. 不良真空管の不適切な扱いによる二次被害の防止

真空管に異常が検出されアンプの保護回路が働き、"7 セグ LED"に異常真空管番号が表示された場合は、速やかに不良真空管の交換を行なってください。新たな真空管に交換をしないまま再度電源を入れないでください。

また、もう一度チェックしようとして、不良真空管を別のソケットに挿入して電源を入れたりしないでください。

アンプには保護回路が搭載されてはいますが、そうした何度ものチェックは保護回路の最も弱い部分(抵抗など)に負担を強い、故障の原因となることがあります。速やかに不良真空管の交換を行ない、"チューブテストプログラム"を実施してください。

5. 保護回路

本機には、信号経路には一切影響を与えない電子保護回路が搭載されています。

この保護回路は、例えば真空管に異常が発生し内部でショートしたりした場合直ちにアンプをシャットダウンします。その場合、Ayon ロゴが点滅し、リアパネルの"7 セグ LED"に不良真空管番号が表示されます。(01/69=V1, 02/69=V2, 03/69=V3..... など) (前記参照)

Note: この場合、電源スイッチを操作しても OFF にはならず Ayon ロゴは約 15 分間点滅を続けます。

対処のしかた

1. 電源スイッチを OFF ポジションにする
2. 電源コードを抜く※
3. 真空管が冷めるのを待つ(約 10 分)
4. 不良真空管を交換する
5. 電源コードをコンセントに繋ぐ
6. 再度、"チューブテストプログラム"を実施する
7. すべての真空管に異常がなければ、Ayon ロゴが点滅から点灯に変わり、通常の動作モードとなります。

※**Note:** 電源コードを抜く前に必ず"7 セグ LED"に表示された不良真空管番号を確認しておいてください。



不良原因を取り除いても尚保護回路が働く場合は、直ちに電源を切ってご購入販売店にご連絡ください。

5-1. バイアス値が低すぎる場合

01/25=V1, 02/25=V2, 03/25=V3.....などの番号が"7セグLED"に表示された場合は、その真空管が経時劣化などによって本来のバイアス値が保たれない状態です。この場合、アンプは平常通り動作しますが、早めに当該真空管を交換されることをお勧めします。

6. Triode (三極管モード) ボタン

出力真空管の動作モードを三極管モードが五極管モードのいずれかに設定するスイッチです。

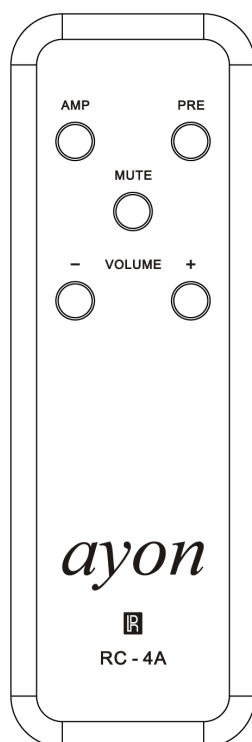
Note: このボタンの操作は必ず電源をOFFにしてから行なってください。

ボタンが出た状態が五極管モード。ボタンを押して引っ込んだ状態が三極管モードです。

※三極管モードでは、フロントパネルの三極管モード LED表示が点灯します。

再生音の純度が極めて高い三極管モードに対し、五極管モードは約50%増の出力アップとなり力感重視の再生が可能です。スピーカーの能率や再生音楽の種類などによって適宜設定してください。

7. リモコン操作



リモコンは Ayon インテグレートッドアンプとプリアンプのコントロールが可能です。

最初に"AMP" か"PRE"を押してから使用します。

“PRE” = “ステップ・アッテネーター”仕様ボリューム搭載のプリアンプ用

“AMP” = “ステップレス・モータードライブ”仕様ボリューム搭載のインテグレートッドアンプとプリアンプ用

“VOLUME”: ボリュームアップ(+)、ダウン(-)

“MUTE”: ミュート

※電池装着/交換のしかた

ご購入時、リモコンの電池は別梱包となっています。ドライバーでリモコン裏蓋のネジを緩めて蓋を外し、+,-の極性表示に従って単4アルカリ乾電池をセットします。

電池は通常半年から一年程度もちますがリモコンの効きが悪くなったら交換してください。

電池を装着したら、裏蓋を元通りにはめます。

注: 電池の極性を間違えると故障の恐れがあり、その場合は保証対象外となりますので十分ご注意ください。



電池の取り扱いについて: 電池は使用上の一般注意事項を守り事故の無いようお取り扱いください。

ブレイクイン時間

ご購入直後のアンプは一定時間のブレイクイン(慣らし運転)を行なうと、回路デバイスや線材などが電氣的に馴染み、本来のパフォーマンスを出しやすくなります。

本機は最低でも次の時間のブレイクインをお勧めします。

- 初期ウォームアップ: 5 時間から 8 時間程度、低音量で静かな音楽を再生
- 更にブレイクイン: 30 時間から 50 時間程度、中位の音量でダイナミックな音楽を再生

Note: 最良のブレイクイン効果を得るためには、6 時間から 8 時間以上の連続再生は避け、随時休憩をとってください。



ブレイクイン用と称する機器や CD などのブレイクイン再生はご使用にならないでください。返って過度な負担をアンプに強いることで不利な影響を及ぼします。

真空管寿命

真空管の寿命は使用されるモデルの違いや平均再生音量、スピーカーの能率、AC 電源の安定性や質など、さまざまなパラメーターによって異なります。また、新たな真空管ではブレイクイン時間内での初期的な不良発生のリスクがありますが、それを乗り切ると安定し、一般的に数千時間の寿命をもちます。

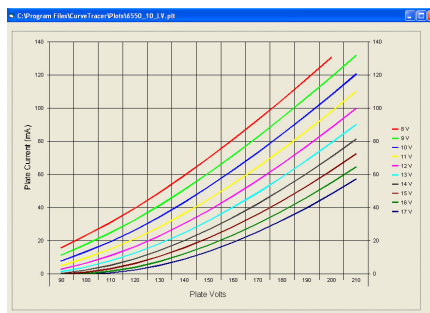
→ 高品質 KT150 真空管では、約 2,000 時間。最高のオーディオレベルを維持するには約 1,500 時間程度での交換を推奨。

→ 高品質 12AU7 真空管では、約 3,000 時間。最高のオーディオレベルを維持するには約 2,000 時間程度での交換を推奨。

Note: 同一ブランドの真空管でもその明るさが異なることが往々にしてありますが、これは、ガラス管内部のシルバーリングの量や位置などに関係するもので、異常ではありません。

Ayon/真空管の品質管理プロセスについて

信号増幅回路とパワーステージに使用される真空管は、Ayon の各モデルそれぞれの特徴を最大限引き出すよう組み合わせを慎重に考慮し選定されています。そして、搭載されるすべての真空管は、特別にカスタムメイドされた Amplitrex AT1000 チューブテスターで事前にバーンインと特性テストが行われます。テスト項目は、プレート電流、トランスコンダクタンス、フィラメントからカソードへのリーケージ、内部ガスの状態、マイクロフォニックスの全 5 項目と多岐に亘ります。ほとんどのメーカーがプレート電流の 1 項目のみのテストで済ましてしまうのに対して、Ayon Audio は真空管のキャラクターを完璧に把握するためのすべての項目をチェックするという厳密なテストを行なっています。また、双三極管に至っても全 5 項目のチェックを徹底し、2 つのセクションそれぞれの特性マッチングがより優れたもののみを使用します。



主な仕様

SPIRIT III Stereo Tube Integrated Amplifier
SPECIFICATIONS

- 出力動作方式: 5 極管モードまたは 3 極管モードでの純 A 級プッシュプル
- 使用真空管: 4 x KT150, 2 x 12AU7, 4 x 6SJ7
- 出カインピーダンス: 8 Ω / 4Ω
- 帯域幅: 12Hz-60kHz
- 出力パワー@5 極管モード: 2 x 65 Watt
- 出力パワー@3 極管モード: 2 x 40 Watt
- 入力感度 for full power: 500mV
- 入カインピーダンス@1 kHz: 100 KΩ
- NFB: 0dB
- ボリュームコントロール: MCU ベース・抵抗素子スイッチング回路
- リモートコントロール
- 入力: 3 x Line, 1 x XLR*, 1 x Direct In *XLR 端子極性:1=Ground,2=Hot,3=Cold
- 出力: 1 x Pre Out, スピーカーターミナル(バインディングポスト)
- 電源: 100V AC, 50/60Hz
- 消費電力: 220W
- 外形寸法(W x D x H) cm: 48 x 37 x 25 cm(本体)、57 x 47 x 35 cm(梱包時)
- 重量: 32kg(本体)、42kg(梱包時)

※改良のため仕様は予告なく変更することがあります。

ayon® is a registered trademark

ケージの装着

火傷など不慮の事故防止のため本機にはケージ(保護カバー)が付属しています。右図のようにケージ取付用のピンを付属の 6 角レンチ(3mm サイズ)を使って、本体上面の 4 隅に取り付けてからケージをセットしてください。



保証

本機の保証はアクシス株式会社が行ないます。

同梱の保証登録カードに必要事項をご記入の上、ご購入後 10 日以内に下記宛にご返送ください。

折り返し、保証書をお送りいたします。

- 保証書に記載された無償保証期間は本体に関するものでご購入日から 2 年間です。
- 真空管の保証期間は本体とは別規定とし、ご購入日から、12AU7, 6SJ7 は 3 ヶ月間、KT150 は 6 ヶ月間です。

その他、保証についての詳細は、保証書をご覧ください。

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-34-27

アクシス株式会社

TEL 03-5410-0071 / FAX 03-5410-0622

AXiSS

輸入発売元: アクシス株式会社 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-34-27 TEL:03-5410-0071 www.axiss.co.jp

©2016.05